

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和2年5月1日 No.20



今回は、スモールステップで課題を行うとはどういうことかを考えました。スモールステップとは目標を達成できるようになるまでのプロセスで、子どもの実態に合わせて細かい課題を設定し、その課題を一つずつ取り組ませることをいいます。具体的に着替えの場面でのスモールステップの課題分析を考えました。

今回も、課題分析に挑戦してみましょう。

特集 課題をスモールステップに分けてみよう

小学校の相談で多いのが「授業中に手いたずらをずっとしている」というのがあります。全体への声かけで「先生の話聞く時は、手は膝に」などの指導をしていると思います。課題分析をする際に、まず、「なぜ、手いたずらをしてしまうのか」を児童の立場に立って考えてみましょう。

(1) どんな状況で起こるのか(例)

- ・ 授業の内容が本人にとって難しい時
 - * 苦手な掛け算の問題の時
 - * ノートに書く量が多い時
- ・ 先生の話が長くなった時
- ・ 4時間目…お腹が空いてきて、落ち着かないことが多い
- ・ 発表などで失敗した時

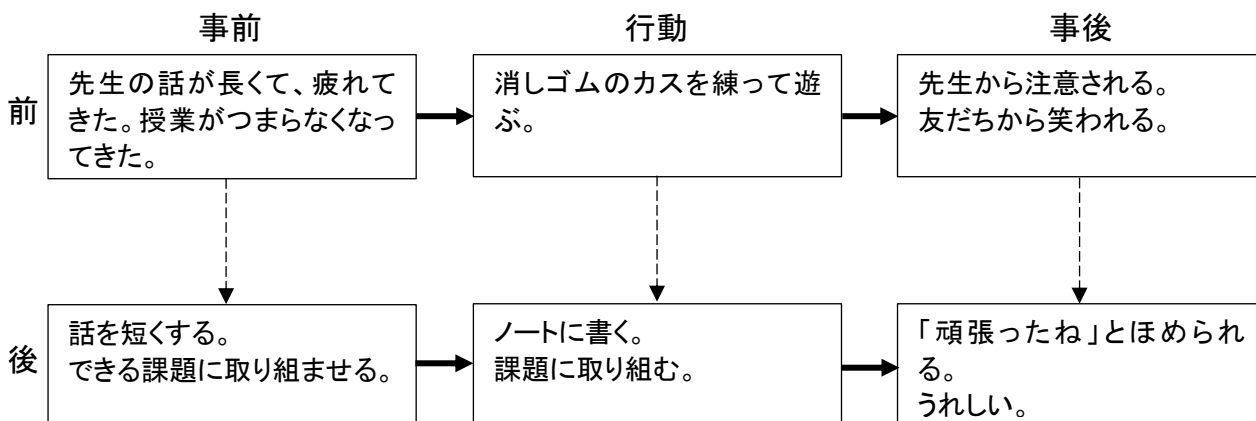
など

(2) 手いたずらをする事で、児童にもたらされていること(例)

- ・ 好きな活動(消しゴムのカスを練る)に没頭できる
- ・ 一時的に、苦手な活動から逃げられる
- ・ 先生に注意される
- ・ まわりの友だちから「また〇〇さんは」と笑われる

など

上記のように、行動の前後を注目することにより、どんな時に手いたずらが起こりやすいかがわかります。それにより、その後の対応がしやすくなります。児童の行動を改善するためには、児童の行動を変えるだけでなく、行動の前後の対応を変えることによって、行動が改善することがあります。以下のようになります。



どこにつまずいているのかその原因を探り、細かな行動単位でほめられることや達成感が得られることを積み重ねて、目標の達成に迫っていきます。問題行動をなくすことを考えるのではなく望ましい行動を積み重ねていくことが大切です。

例 友だちに向けて「キモい」と言うAさん

(1)どんな状況で起こるのか

Aさんは学習面での遅れが見られます。多くの授業についていけないことが多く、ノートに何も書かなかったり、私語が多くて授業妨害のような行動も見られます。先生に注意をされた後や、いつも頑張っている友だちに向けて「キモい」ということが多く見られます。女子に対して言うことが多いと思います。人を傷つけて、強がっているのではないかと思うこともあります。



(2)「キモい」ということでもたらされていること

「Aさんは怖い」と思われ、友だちからは一目置かれるような(敬遠されるような)存在になっています。最近は先生から注意されることも「箔付け」のように受け止めているようです。

(3)スモールステップとして考えられること

① 学校生活全体で自己肯定感を高める指導を行う。

(ア)得意な活動で注目できる場を設けます。授業場面ならば、教科書を広げた・ノートに書き始めた時点で「おっ！いいね！」とほめます。

(イ)ノートに書くのをやめてしまったら「ここまで書けたんだね」「大事なところを で困むから、そっちを書いてごらん」など、先生の目がAさんに向いていることを伝えます。取り組める量に課題を加減し、励まし、できたらほめます。

(ウ)「今日は集中していたね」と頑張ったことを、周囲にもわかるように伝えます。

② 教室の中での言語環境を整える。

(ア)まずは先生自身が使う言葉を見直します。気持ちのよい言葉を意図的に使うようにします。注意されることが多いクラスよりは、ほめられる言葉や思いやりのある言葉がたくさん聞かれるクラスづくりをします。「〇〇しないで」という否定語よりも、「* *しようね」という具体的なわかりやすい指示に変えます。

(イ)クラス全体の言語環境がよくなると、「言われて嬉しい言葉」に気付けるようになります。すぐには使えなくても、不適切な言葉を使うことは改善されるようになります。

(ウ)Aさんができる言葉遣いから指導します。友だちを「〇〇さん」と呼ぶ、「ありがとう」を言うことなどから、取り組みます。

まとめ

「どんな状況で起こるのか」には、行動の機能(要求・逃避・注目・感覚刺激)で分析することが大切です。注目行動を目的として問題行動を起こしている子どもに、「何度言ったらわかるの」と何度も注意をしたり、大きな声で注意をすると行動は改善するどころかますますエスカレートしていきます。「行動の前後を変える」「望ましい行動を増やす」をキーワードに、スモールステップを考えていきましょう。

急にすべてができることを望まず、「全然やってくれない」という状況から、「鉛筆を持った」「教科書を出した」というところを第1歩と肯定的に受け止められるようにかかわってみてください。

